

現代 証された農家の所得の安定と相まって、国民の消費生活は向上した。家庭電化による生活の合理化が進められ、テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫が、「三種の神器」とよばれて宣伝され、普及し、昭和三十年（一九五五）は

「電化元年」といわれた。やがて神武景気は、なべ底景気といわれた不況を経て、昭和三十三年（一九五八）設備投資が一段と活発化して、「岩戸景気」とよばれる好況を迎え、個人消費・民間住宅建設・輸出が著しく伸びた。昭和四十年（一九六五）には、戦後最大といわれた不況が到来したが、この年から始まったベトナム戦争の需要や対米輸出の伸びによって、これまで以上の好況を迎え、しかも五年間もつづいた。成長率は年々一〇割を超え、超高度成長といわれ、「神武」・「岩戸」景気を凌ぐ景気という意味で、日本の国造りをしたと神話に伝える神の名をとって「いざなぎ景気」とよばれた。

### 再び王者

占領軍が、日本の民間貿易の再開を、条件付きながら許可したのは、昭和二十四年（一九四九）のこの横濱貿易とである。しかし当初は、戦前に比べて輸出は四・五割、輸入は二一・七割程度に過ぎなかった。

講和条約が発効して独立を回復した年でも、戦前に比べて輸出は五〇割余、輸入は七五割余にすぎず、全国貿易量比率も、終戦時は八割に低落、その後上昇を示しつつづけたが、その歩みはおそかった。その主な理由は、港湾施設の大部分が接収されたことと、条件付き貿易のため手続上中央官庁（貿易庁）のある東京に貿易商社が集中したからである。まず最初の輸出商品は、生糸であった。しかし生糸の主要輸出先のアメリカでは、戦時中につくり出されたナイロンに生糸市場が浸食されて、予想外に不振であった。生糸貿易では、横濱貿易の隆盛を回復す

ることは、もはや不可能であった。それでも昭和二十二～三年（一九四七～八）には、横浜貿易の五〇％を占めていた生糸絹織物は、昭和三十年（一九五五）には、九・六％にとどまり、代わって鉄鋼が一二・五％となって一位を占めた。

生糸に代わって急上昇したのが、京浜工業地帯の復興と拡大によって急成長を遂げた重工業の製品である。この時期になると、大工場はそれぞれ工場に接岸する埠頭ふとちをもち、横浜港を経ずに直接輸入原料の積下し、製品の積出しを行うものが多くなって、貿易は、横浜港・川崎港・横須賀港の三港で行われる形となった。この三港を総合した本県の貿易額は、昭和四十五年（一九七〇）には、鉄鋼が輸出品の首位を占めた昭和三十年と比べると、輸出額は千五百六億円から一兆八千四百四億円へと一二・二倍、輸入は二千六十四億円から一兆四千五百三十五億円へと七倍に拡大した。

こうして、横浜港の機能は回復した。貿易の正常化した昭和二十五年（一九五〇）ころには、輸出入とも神戸港に次いで第二位であったが、その後、神戸港と一位を角逐しつつ、昭和三十五年以降は輸入で、その十年後は輸出で全国第一位を占め、輸出入とも全国第一の貿易港の地位をとりもどした。

### 経済大国再生の奇跡

「いざなぎ景気」は、日本を文字どおり世界の経済大国に押し上げた。日本の国民総生産（G・N・P）は、昭和四十年（一九六五）には、アメリカ・西ドイツ・イギリス・フランスについて、資本主義国中の第五位であったが、昭和四十三年（一九六八）には、アメリカに次ぐ第二位になった。

しかも日本産業は、戦後、絶えず新技術を導入しつつ復興したため、どの分野でも国際的に高い水準に到達し、工業生産では、アメリカ・ソ連に次ぐ世界第三位の工業国となった。日本の輸出も、鉄鋼・船舶・自動車・金属製品などの重化学工業の製品が主体となった。「いざなぎ景気」では、国民所得の増大を反映して、「神武景気」の三種の神器よりはるかに高価で生活を楽しむカラーテレビ・クーラー・カー（乗用車）の三Cの時代が到来したといわれた。とくに自動車は、アメリカに次ぐ自動車王国となり、本場のアメリカはもちろん、ヨーロッパ各国に輸出する世界一の輸出国に成長した。こうした日本の再生は、世界の奇跡といわれた。

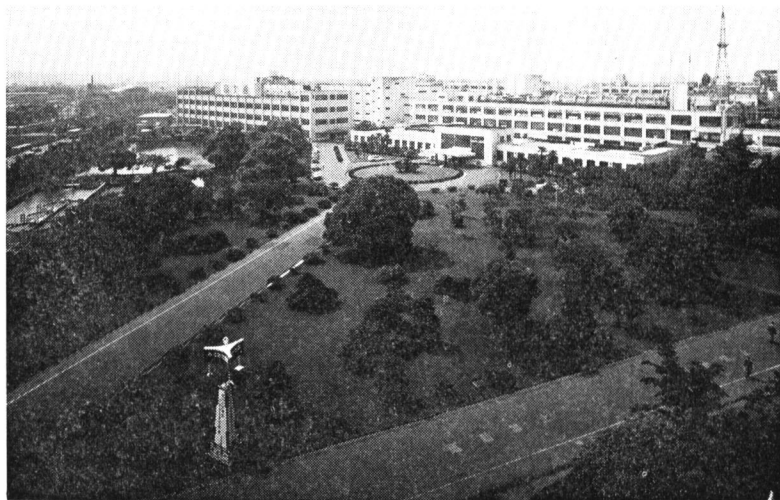
こうした日本再生の姿は、そのまま本県の姿でもある。むしろ、京浜工業地帯をもつ本県は、この再生に大きな役割を果たし、本県自身もわが国有数の工業県として成長し、経済大県となった。世界の奇跡の一翼を担った。しかし、遠く縄文時代から、近世・近現代に至る間に、いくたびか壊滅的天災（富士山噴火・大地震）をうけながらも、再生して来た不死鳥にもみえる県の歴史を顧みるとき、本県にとっては、奇跡ではない。

### 現代本県の課題

昭和五十五年（一九八〇）版の県勢要覧「かながわ80」によると、県下の面積は二十三万九千七百八<sup>ヘクタール</sup>、全国総面積の〇・六三<sup>パーセント</sup>で全国府県中第四十三位に当たり、このうち森林面積は県面積の四〇<sup>パーセント</sup>を占める。また県下の十九市十七町一村のうち、十九市十七町が都市計画区域に指定され、その面積は、一千九百八十三平方<sup>キロメートル</sup>で領域の八三<sup>パーセント</sup>に当たり、そのうち市街化した区域は九万七百八十八<sup>ヘクタール</sup>である。これに対し、耕地面積は二万六千六百三十二<sup>ヘクタール</sup>である。

人口は、六百九十二万四千二百五十八人で、東京都・大阪府に次ぐ全国第三位である。人口密度は、一平方キロメートル二千八百八十九人で、これもまた全国第三位の密度である。しかも地域的にみると横浜・川崎地区が、五五・一割を占めている。昭和三十年（一九五五）には総人口二百九十一万九千四百九十七人であった。十五年間に二倍以上の増加である。この増加は、時には増加人口の七五割を越す経済成長に伴う雇用の増加、東京都からの人口の流入などの社会的要因と、他府県からの流入によって促されたものである。県総人口のうち雇用者は、二百五十三万三千人に達する。このうち工業従業者数は、工場数二万三千四百四十四に対し六十七万八千七百七十七人で、その製造品出荷額は十六兆九千七百二十三億円である。県民所得一人当たり百七十九万八千七百七十七円、十年前の昭和四十五年（一九七〇）の六十七万三千六百三十円に比べると、三倍に近い。県下の自動車保有台数は、十年前の八十一万台から百六十一万台に達し、更に増加の勢いにある。県の財政規模も、収入七千七百二十六億九千三百余万円に達した。正に経済大県の相貌そぼうを呈している。

しかしこうした経済、とくに工業県への発展は、反面深刻なマイナスの面を拡大した。それは人間無視、経済万能とすることから生まれたものである。都市化を進めるための自然破壊、人口の過密化による生活環境の悪化、工場の排出する人間の生命すら危うくする有害廃棄物の投棄と有毒ガスの放出、宅地造成や道路建設による自然と文化的遺跡の容赦ない破壊などがあり、本県特有のものとして、アメリカ軍基地の存在による周辺住民への各種の公害がある。これらのマイナスの面に対し、各地に各種の住民運動が高まりつつある。これらの住民運



植樹が行われた工場—川崎市内—

神奈川県庁蔵

動に対応して、他の府県に先立って昭和三十九年（一九六四）に、「公害の防止に関する条例」を制定し、全国に先がけて、騒音・振動・汚水・廃液・ばい煙・粉塵ふんじん・ガス・臭気の八種類の基準をつくり「公害審査委員会」を設置して、行政指導を行った。横浜市でも、「だれでも住みたくなる都市づくり」をかかげて衛生局に公害課を設けた。また公害甚大と予想される工場との間に住民の健康を優先するという「公害防止契約」の新方式を開いた。昭和四十五年（一九七〇）の県議会は、公害条例に論議が集中し、「公害県会」とよばれた。

こうした経済優先のうちに失われた人間と自然を復権するところに、不死鳥神奈川県の明日がある。

昭和29	1954	12 県文化財に13点を指定する (第1回) 1 町村合併促進で箱根町誕生 (県下最初) 11 県立図書館・県立音楽堂開館する	7 朝鮮休戦協定調印 3 第5福竜丸被爆 9 洞爺丸遭難事故
"	30	55 3「神奈川県総合開発計画書」を発表する 10 第10回国体秋季大会開会 (県下12会場)	4 バンドン会議 8 原水禁世界大会
"	33	58 4 県営扇島埋立事業起工式 12 ラジオ関東 (現・ラジオ日本) 放送開始	9 仏第5共和制発足 12 東京タワー完工
"	39	64 6 太平洋横断ケーブル (二宮一ハワイアメリ カ) が開通する 10 東海道新幹線開業 (新横浜駅営業開始) 10 オリンピック東京大会開会 (横浜・江の島・ 相模湖等4会場で競技)	4 OECD加盟 9 東京モノレール開業
"	43	68 5 横浜港本牧ふ頭にコンテナ船第1号入港する 11 高速神奈川1号横浜線全面開通	6 小笠原諸島返還 10 明治百年記念式典
"	44	69 5 東名高速道路全面開通 7 県, 地区行政センターを設置 (7地域)	6 原子力船「むつ」進水 7 米宇宙船月面着陸
"	45	70 9 日本鋼管と県・横浜・川崎両市, 扇島の公害 規制で合意成立する	3 日本万国博覧会 11 三島事件
"	46	71 7 湘南モノレール (大船一江の島口間) 全通 8「革新メガロポリス」実現. 初の市長会	1 日本, 国連安保理事 国に就任
"	47	72 4 テレビ神奈川 (TVK) 放映開始 12 横浜市営地下鉄1号線開通	5 沖縄祖国復帰 9 日中国交正常化
"	48	73 4 国鉄根岸線 (桜木町一大船間) 全通する 9 県大気汚染監視センター作動を開始する	1 ベトナム和平協定 11 第1次石油危機
"	50	75 1 県民ホール開館 4 知事に長洲一二当選する (革新県政の誕生)	3 山陽新幹線開業 7 沖縄海洋博覧会
"	51	76 4 相模鉄道いずみ野線開通 10 神奈川芸術祭 (第1回) 開幕	2 ロッキード事件 7 南北ベトナム統一
"	52	77 8 あすの神奈川を考える県民討論会を開催する 10 県, かながわ50選シリーズ第1弾を選定する	4 領海12カイリ, 漁業 水域200カイリ実施
"	53	78 2 県総合開発審議会「新神奈川計画」を答申 7 横浜で「地方の時代」シンポジウム開く	5 新東京空港開港 8 日中条約調印
"	54	79 7 6都県市首脳会議 (首都圏サミット) 12 横浜シティ・エア・ターミナル開業する	6 元号法公布 6 サミット東京会議
"	56	81 4 県, 米国メリーランド州との友好提携協定書 に調印する 7 県, 環境影響評価(アセスメント)条例実施	3 第2次臨時行政調 査会発足 10 南北サミット開催
"	57	82 6 横浜市, 「みなとみらい21」計画を発表する 10 かながわ環境文化賞第1回受賞者決定する	4 フォークランド紛争 5 日米航空交渉決着
"	58	83 4 県, 情報公開条例実施する 5 県, 中国遼寧省との友好提携書に調印する	9 大韓航空機墜落事件 10 初の体外受精児

大正14	1925	7 横浜商工対横浜高商第1回野球定期戦 12 鶴見騒擾事件	1 日ソ国交回復 3 ラジオ放送開始
昭和1	1926	3 総同盟神奈川連合会発会式举行 7 郡役所を廃止する	3 労働農民党結成 5 英国炭坑スト
"	2	27 4 県、三部経済制を廃止する 4 小田原急行鉄道、新宿一小田原間開通	3 金融恐慌始まる 6 東方会議
"	5	30 4 湘南電気鉄道、黄金町一浦賀間開通 11 富士紡川崎工場ストに“煙突男”登場する	1 金解禁 1 ロンドン会議
"	7	32 3 東京横浜電鉄、渋谷一桜木町間全通 5 大磯・坂田山心中	3 「満州国」建国 5 5・15事件
"	8	33 12 自動車製造(株)設立(日産の前身) 12 神中鉄道、厚木一横浜間全通	1 ナチス政権成立 3 日本、国際連盟脱退
"	9	34 1 富士写真フイルム(株)創立総会 9 横浜・川崎両市で防空演習実施する	4 帝人事件 12 丹那トンネル開通
"	10	35 3 復興記念横浜大博覧会を開幕する 7 湘南海岸道路開通	2 天皇機関説事件 10 エチオピア戦争
"	11	36 1 松竹大船撮影所開所 2 2・26事件、湯河原で牧野伸顕襲われる	11 日独防共協定調印 12 西安事件
"	12	37 11 県営京浜工業地帯造成事業起工式 12 第1次人民戦線事件、県関係19人検挙	4 文化勲章制定 7 日中戦争始まる
"	16	41 6 大政翼賛会県支部第1回協力会議 12 県下でアメリカ映画の上映を禁止する	6 独ソ戦争始まる 12 太平洋戦争始まる
"	17	42 2 『神奈川新聞』創刊 4 米軍機、横浜・川崎・横須賀を初空襲する	6 ミッドウェー海戦 6 関門トンネル竣工
"	19	44 5 神奈川中央自動車(株)発足 8 横浜市学童疎開第1陣出発	7 サイパン島陥落 10 レイテ沖海戦
"	20	45 5 米空軍600機、横浜を大空襲 8 連合国軍最高司令官マッカーサー厚木到着 12 東芝堀川町工場従業員、労働組合結成	7 ポツダム会議 8 広島に原爆投下 8 ポツダム宣言受諾
"	22	47 12 横浜裁判開廷 第1回知事選挙、内山岩太郎当選する 7 相模ダム完成式	10 国際連合発足 1 2・1スト中止命令 5 日本国憲法施行
"	23	48 6 「神奈川財政事情」公表(第1回) 11 県章を制定する	11 極東軍事裁判判決 12 経済安定10原則
"	24	49 3 日本貿易博覧会(横浜)を開幕する 8 湘南高校、第31回全国高校野球大会で優勝	4 北大西洋条約調印 7 下山事件
"	26	51 4 桜木町駅構内で国電炎上、99人焼死 11 県立近代美術館開館	6 ユネスコ加盟 9 対日平和条約調印
"	27	52 5 県、第1回戦没者慰霊祭を举行する 11 第1回神奈川文化賞授与式	5 メーカー事件 10 保安隊発足
"	28	53 5 日産争議おこる	2 テレビ放送開始

明治20	1887	10 横浜の上水道、市街に配水を開始する	10 三大事件建白書
"	22 89	4 市制町村制施行（1市26町294村）	2 大日本帝国憲法発布
"	23 90	6 大船一横須賀間に鉄道開通する	
"	23 90	2 『横浜貿易新聞』創刊	5 府県制・郡制公布
"	23 90	6 鈴木三郎助、葉山で本格的にヨード製造を開始（味の素<株>の起源）する	10 教育勅語発布
"	23 90	12 横浜電話交換局開局	11 第1通常議会議召集
"	24 91	5 英国・ミルナー座、「ハムレット」をパブリック・ホール（横浜）で上演する	5 大津事件
"	24 91	6 横浜船渠会社設立許可	5 シベリア鉄道着工
"	26 93	4 多摩3郡を東京府へ移管する	
"	26 93	9 川崎・当麻辰次郎、梨の新種を育成する	
"	29 96	3 日本郵船、欧州定期航路開設、第1船土佐丸、横浜港を出航する	3 航海奨励法・造船奨励法公布
"	30 97	3 横浜の港産、仏系シネマトグラフを公開する	10 金本位制実施
"	30 97	4 神奈川県尋常中学校開校	
"	32 99	1 大師電気鉄道、六郷橋一大師間営業開始	3 義和団ほうり起
"	32 99	7 県、府県制・郡制を施行する	7 改正条約を実施
"	32 99	7 横浜外国人居留地を撤廃する	10 ポーア戦争始まる
"	37 1904	7 横浜電気鉄道、神奈川一大江橋間開業	2 日露戦争始まる
"	37 1904	7 横浜平民社発会式	
"	41 08	6 小田原報徳社、社団法人に改組する	6 赤旗事件
"	41 08	8 横浜鉄道、東神奈川一八王子間開業	
"	43 10	6 幸徳秋水、大逆事件首謀者として湯河原で逮捕。10. 内山愚堂、事件に連座し逮捕。10. 江之島電気鉄道、藤沢一鎌倉間全通	8 韓国併合
"	43 10	10. 内山愚堂、事件に連座し逮捕。10. 江之島電気鉄道、藤沢一鎌倉間全通	11 帝国農会設立
大正1	1912	4 県と東京府との境界が多摩川となる	1 中華民国成立
"	1 1912	6 日本鋼管（株）設立（本社・横浜市）	8 友愛会設立
"	2 13	2 鶴見埋立組合設立（8月同埋立着工）	2 大正政変
"	2 13	6 友愛会川崎支部発会式を挙げる	
"	3 14	9 アミガサ事件（川崎）	7 第1次世界大戦
"	7 18	8 横浜公園に群衆集合、電車・交番に投石する	8 米騒動
"	8 19	2 スペインかぜ、県下に流行する、死者727人	1 パリ講和会議
"	8 19	6 箱根登山電車、箱根湯本一強羅間開通	3 朝鮮3・1運動
"	9 20	5 横浜仲仕同盟、横浜公園でメーデー開催	1 国際連盟発足
"	9 20	12 横浜興信銀行開業	3 戦後恐慌始まる
"	12 23	9 関東大震災、死者2万9614人、全壊焼12万戸、被災総額1億1237万500円	9 モラトリアム実施
"	12 23	9 関東大震災、死者2万9614人、全壊焼12万戸、被災総額1億1237万500円	12 虎の門事件
"	13 24	4 横浜商業、第1回全国選抜中等学校野球大会に出場する	1 第1次国共合作
"	13 24	7 青和会結成	6 護憲3派内閣成立



明治 1	1868	3 横浜裁判所設置 4. 神奈川裁判所と改称 5 箱根戦争おこる 6 神奈川裁判所, 神奈川府と改称 9 神奈川府, 神奈川県と改称(神奈川県の成立), 知事に寺島宗則が就任する	1 戊辰戦争始まる 3 五箇条の誓文
"	2	69 5 成駒屋, 横浜一東京間に乗合馬車を開業 12 横浜一東京間に公衆電報取扱いを開始	6 版籍奉還 11 スエズ運河開通
"	3	70 11 人力車営業, 川崎・神奈川で開始 12 『横浜毎日新聞』創刊(最初の日刊紙)	1 大教宣布の詔出る 7 普仏戦争始まる
"	4	71 2 横須賀製鉄所(4. 横須賀造船所と改称), ドック開業式を挙げる 7 廃藩置県により六浦県・荻野山中県・小田原 県・韭山県を設置. 11. 神奈川・六浦両県を廃 止し神奈川県, 荻野山中・小田原・韭山の3県 を廃止し足柄県を設置する	1 郵便創業 1 ドイツ帝国成立 5 新貨条例制定
"	5	72 9 横浜一新橋間鉄道開業式を挙げる 9 神奈川県, 遊女らの人身売買営業を禁止する	2 土地売買の禁解除 8 学制頒布
"	6	73 3 神奈川県, 第1回徴兵検査を実施する 5 神奈川県, 区画改正実施(20区185番組) 6 横浜・堤磯右衛門, 石けん製造を開始する	7 地租改正条例布告 10 3帝協商成立
"	7	74 6 神奈川県, 区番制を廃止, 大区小区制実施 7 神奈川県, 地租改正実施による地引絵図の作 成各村で開始する	1 民選議院設立建白書 を左院に提出す 2 台湾出兵
"	8	75 1 横浜郵便局で外国郵便開業式を挙げる 2 三菱商会, 横浜一上海間航路を開始する	2 大阪会議 9 江華島事件
"	9	76 4 足柄県廃止, 相模国7郡を神奈川県へ編入 11 カーチス, 鎌倉郡下でハム製造を開始する	3 廃刀令布告 8 金禄公債を支給する
"	11	78 10 大住郡真土村事件 11 郡区編制実施(1区13郡)	6 ベルリン列国会議 7 三新法制定
"	12	79 3 第1回県会開會 6 地方税々則公布	3 琉球処分 10 独・墺同盟成立
"	13	80 2 横浜正金銀行開業 5 横浜商法会議所開所	11 工場私下概則制定
"	14	81 4 西多摩郡五日市・千葉卓三郎ら「日本帝国憲 法」草案を起草する	6 3帝同盟成立 10 自由党結成会議
"	17	84 11 武相因民党結成 12 海軍省, 横浜の東海鎮守府('75年設置)を横 須賀に移し横須賀鎮守府と改称する	6 清仏戦争はじまる 12 甲申事変
"	18	85 8 大磯海岸で海水浴始まる 9 日本郵船会社設立('86年横浜に移転)	4 天津条約調印 12 内閣制度確立
"	20	87 7 横浜一國府津間に鉄道開通	2 地中海協商成立

元禄15	1702	県城913村, 約35万石	1673	分地制限令	
"	16	1703	関東大地震, 小田原城大破	1686	生類憐み令
宝永4	1707	富士山大噴火, 相武各地大被害. 小田原藩5万石の替地を求める	1702	大石良雄ら, 吉良義央を討つ	
享保1	1716	幕府, 小田原藩に宝永5年砂害収公地47村, 2万2500石余を再び与える	1709	新井白石登用	
"	5	1720	下田奉行を廃し, 浦賀奉行を置き, 廻船改めを始める	1719	相对済し令
"	6	1721	川崎宿本陣名主田中丘隅, 民間省要を著す	1720	農村統治を令す
"	7	1722	米倉忠仰, 久良岐郡金沢に陣屋を置く	1722	新田開発奨励
"	19	1734	代官萁正高, 自著農家慣行を励行させる	"	上米制
寛保2	1742	関東一帯大洪水	1732	西国蝗害, 大飢饉	
延享2	1745	幕府, 荒川番所の五分一運上取立値段を決める	1742	公事方御定書成る	
宝暦	4	1747	幕府, 小田原藩に上知村々を返還する		
年間	1760		このころ以降, 旗本領村々の年貢先納と月割制が一般化し, 御用金賦課が恒常化する	1747	青木昆陽登用
天明2	1782	小田原地方大地震, 天守閣傾く			
"	3	1783	大久保教翹, 愛甲郡荻野村山中に陣屋設置	1767	山県大武捕わる
"	5	1785	幕府, 救荒作物を奨励する	1773	老中は田沼意次
寛政1	1789	江戸周辺1053村, 江戸下肥値段を訴える	1777	解体新書刊行	
"	12	1800	津久井地方に俳諧流行する. 箱根挽物細工専門店が出来る. 下肥値段段社会問題化する	1782	天明大飢饉始まる
文化5	1808		フェートン号事件	1783	浅間山大噴火
文化7	1810	幕府, 会津藩に三浦半島海岸防備を命じる	1787	老中は松平定信	
文政1	1818	小田原城主大久保忠真, 老中となる	1797	ロシア人エトロフ島に上陸する	
"	10	1827	幕府, 関東に改革組合を設ける. 相模13組合, 武蔵3郡9組合を設ける	1804	レザノフ長崎入港
天保8	1837	小田原城主大久保忠真, 二宮尊徳に村々の復興を命じる. モリソン号浦賀に来航する	1818	ゴルドン浦賀に来航し通商を求める	
"	12	1841	幕府, 関東村々に孝行和讃を配付する	1824	英船員, 常陸・薩摩に上陸する
弘化4	1847	幕府, 相武・房総沿岸警備を4藩警衛とす	1825	無二念打払令	
嘉永6	1853	米ペリー東印度艦隊, 江戸湾に来航する	1830	おかげ参大流行	
安政3	1856	相模一帯大風害	1833	諸国大飢饉	
"	6	1859	横浜, 港開き, 店開き, 交易を開始する	1837	大塩の乱
文久3	1863	農兵取立始める. 將軍上洛, 東海道大混雑	1841	天保改革始まる	
元治1	1864	天狗党騒乱, 県城旗本出兵を命じられる	1848	鹿児島藩軍制改革	
慶応1	1865	横須賀製鉄所起工. 仏人ウエルニー活躍する	1854	日米和親条約	
"	3	1867	相武各地に神札が降り, 人々えいじゃないかを狂舞する. 浪士ら, 荻野山中陣屋を焼打つ. 王政復古の号令発せられる	1860	桜田門外の変
				1863	薩英戦争
				1866	江戸打ちこわし
				1867	大政奉還

天正18	1590	豊臣秀吉、小田原北条氏を攻囲し、これを亡ぼし、徳川家康を関東に転封する。家康は江戸城に入り、家臣に所領を与え、寺社に所領を寄進する。大久保忠世を小田原城主に任じる	1590 秀吉、天下統一	
天正19	1591	大久保忠世、領内を検地する。秀吉、鶴岡八幡宮の造営を家康に命じ、県域各地を検地する	1591 千宗易自殺する	
文禄3	1594	長谷川長綱、三浦郡内を一斉に検地する	1592 文禄の役	
慶長1	1596	代官伊奈忠次ら、石屋善左衛門に石切輸送の手形を与える	1597 慶長の役	
"	5	1600	家康、会津上杉景勝攻略の途路、下野国小山に諸将と議す。豊臣系諸将多く徳川方となり、関ヶ原の合戦に家康勝つ	1600 関ヶ原の戦
"	6	1601	徳川氏、東海道に伝馬朱印状を發し、宿を定める。県域に神奈川・保土ヶ谷・藤沢・平塚・大磯・小田原の六宿を置く	
"	8	1603	大久保忠隣、酒匂堰を開鑿する。津久井地方に総検地を実施する	1603 徳川家康、征夷大将軍に任じられる
"	10	1605	法印実雄を大山の学頭に任じる	1603 糸割符制度
"	14	1609	二ヶ領用水の幹線完工する	
"	18	1613	遊行上人の廻国に伝馬手形を与える	
"	19	1614	大久保忠隣改易され、小田原は番城となる	1614 大坂冬の陣
元和4	1618	箱根新道開通し、箱根宿を設ける	1615 大坂夏の陣、豊臣氏滅亡	
"	5	1619	箱根関所を置く	
"	9	1623	川崎宿を設ける	
寛永2	1625	地方直し、県域に旗本領増加する	1629 紫衣事件	
"	8	1631	県域に五人組関係文書初出する	
"	9	1632	稲葉正勝、小田原城主となる	
"	10	1633	関東一帯大地震、小田原宿は全壊し、小田原城は大破する	
"	11	1634	高座郡羽鳥村の寺請証文、キリシタン禁制・寺請・檀家制を明記する	1635 参勤交代 1637 島原の乱
"	17	1640	江の島岩本院、本末争論。小田原領総検地	1639 鎖国完成
正保1	1644	足柄上郡木賀温泉、将軍に湯樽を献じる	1642 諸国大飢饉	
"	2	1645	この年、県域823村、約30万石	1643 田畑永代売買禁止
"	2	1645	三崎奉行・走水奉行を置く	1651 由井正雪の乱
万治1	1658	この年より小田原領総検地。下田隼人の麦租撤回直訴が伝えられる	1653 佐倉騒動を伝える 1657 江戸大火	
寛文4	1664	久世広之、津久井地方を領し、総検地を施行	1661 諸国大風雨	
延宝1	1673	小田原地方大風雨、潰屋84軒	1665 幕府、諸大名・諸国寺社の朱印を改め交付する	
"	8	1680	箱根路の一部が石路となる	
貞享3	1686	大久保忠朝、小田原城主に任じられる		

寿永 2	1183	頼朝、東海・東山両道の支配を宣言する	1183 平家都落
建保 1	1213	鎌倉に和田合戦。和田義盛自殺する	1184 公文所・問注所を設置する
承久 1	1219	源実朝、公暁に殺される	1192 頼朝、征夷大將軍に任じられる
貞永 1	1232	和賀江島竣工する	1221 承久の乱
仁治 1	1240	幕府、鎌倉市中禁制を定める	1274 文永の役
建長 4	1252	鎌倉由比の浦に金銅大仏の鑄造始まる	
〃 5	1253	日蓮、鎌倉で念仏無間を説き、北条時頼、蘭溪道隆を迎え、建長寺落慶供養を行う	
建治 3	1277	阿仏尼、鎌倉に下向する	
弘安 5	1282	一遍、小袋坂から鎌倉に入る。北条時宗、円覚寺を建て、無学祖元を開山とする	
永仁 1	1293	鎌倉鍛冶の創始者新藤五国光の作品出現する	
正和 4	1315	鎌倉大火	1324 正中の変
嘉暦 2	1327	夢窓疎石、瑞泉寺を創建する	1331 元弘の乱
正慶 2	1333	新田義貞、鎌倉幕府を亡ぼす	
貞和 5 正平 4	1349	足利基氏、鎌倉へ下る（関東公方の始）	1336 室町幕府始まる
延文 5 正平 15	1360	畠山国清、関東管領として鎌倉に下る	1392 南北朝合一
応永 25	1418	藤沢清浄光寺に上杉禪秀の乱(1616)以来の敵味方戦死者の供養碑を建てる	
永享 10	1438	永享の乱	
〃 12	1440	結城合戦	1441 嘉吉の変
宝徳 2	1450	江の島合戦	
享徳 1	1452	鎌倉府、関銭を納めずに小田原を通るを禁じる	
康正 1	1455	古河公方の始	
長祿 2	1458	堀越公方の始	1467 応仁の乱始まる
文明 18	1486	上杉定正、太田道灌を相模糟屋に誘殺する。聖護院道興、相模を巡行し、後鎌倉に遊ぶ	
延徳 3	1491	伊勢宗瑞、堀越公方茶々丸を攻め殺す	
明応 4	1495	伊勢宗瑞、小田原城を攻略する	1495 このころ雪舟の活躍が著しい
永正 9	1512	伊勢宗瑞、相模岡崎城を攻略し、鎌倉へ入る	
〃 13	1516	伊勢宗瑞、三浦義同を新井城に攻め滅ぼす	
〃 15	1518	小田原北条氏、虎の印判を用い始める	
大永 4	1524	北条氏綱、江戸城主上杉朝興を破る	
天文 6	1537	北条氏綱、上杉朝興を破り川越城を奪う	
〃 7	1538	国府台の戦い、永祿 7 年=1564、再度戦う	1543 鉄砲伝来
〃 15	1546	扇谷上杉氏滅びる	1553 川中島の戦
永祿 2	1559	小田原所領役帳ができる	1560 桶狭間の戦
〃 4	1561	長尾景虎、小田原城下に攻め入る	
永祿 12	1569	武田晴信、小田原城下に攻め入り、ついで、三増峠に小田原北条氏方を破る	1569 織田信長上洛する 1517 信長、延暦寺焼打

# 年 表

本年表は、原始～1983年までの事項を県内と国内に区分して収めた。但し、考古学時代の国内は県内の主要遺跡名を記した。

年 代	県	域	国内・国際
3万年前	相模野台地	人間の居住が行われる	先土器時代
2万年前	県域各地	人々の生活が営まれていた	
13000年前		細石刃が普及する	相模原市塩田遺跡
1万年前		土器の始まり、本格的弓矢使用、貝塚出現する	横浜市花見山遺跡他
5000年前		立体的装飾の豪華な土器が作られる	相模原市勝坂遺跡
6000年前		定型的集落が営まれる	横浜市南畑貝塚
3500年前	東北地方	の亀ヶ岡文化の影響をうける	
2100年前	東海地方	の水神平式文化が流入する	津久井町中野大沢遺跡
2000年前	各地	に大規模な農耕集落が出現する	横浜市大塚遺跡他
		方形周溝墓が形成される	横浜市歳勝土遺跡
1800年前		鉄器が普及する	
1700年前		土師器が現われ、古墳が造られる	平塚市真土大塚古墳
1500年前		鉄製農工漁具が増加する	
1300年前		小円墳・横穴が群集して営まれる	秦野市桜土手古墳群他
安閑 1	471	稻荷山古墳鉄剣銘	478 倭王武，宋に上表
	534	武蔵国造笠原直使主が同族小杵と争う	618 唐興る
	589	武蔵四屯倉が成立する	646 大化改新の詔
霊龜 2	716	相模等東国の高麗人を移し、武蔵高麗郡設置	664 防人制始まる
天平 7	735	相模国封戸租交易帳成る	710 平城遷都
天平 4	752	相模人良弁東大寺別当となる	741 国分寺建立を発詔
勝宝 7	755	相模・武蔵の防人、歌を進める	
宝龜 2	771	武蔵国を東山道より東海道に移す	
” 5	774	大伴家持、相模守に任ぜられる	
延暦 11	792	相模国の献橘を停める	794 平安遷都
” 21	802	富士の焼石、道を塞ぐ。足柄路を廃し、箱根道を開く。翌年、旧に復す	
” 23	804	相模人義真、最澄と共に入唐する	
弘仁 10	819	相模国分寺災す	
貞観 15	873	漢河寺を相模国分寺とする	
元慶 2	878	相武大地震、両国の国分寺倒壊する	
寛仁 4	1020	菅原孝標の女、相模国を経て帰京する	1056 前九年の役起こる
万寿 1	1024	このころ、歌人相模、夫に従い在国する	1085 後三年の役起こる
長久 1	1132	大神宮禰宜ら、国司の大庭御厨取公を訴える	1156 保元の乱
		源義朝、在庁官人らと同御厨に乱入する	1159 平治の乱
治承 4	1180	源頼朝、挙兵し、石橋山合戦に敗れ、鎌倉入する	
寿永 1	1182	頼朝、若宮大路を作る	

## あとがき

「神奈川県史」の刊行は、明治元年（一八六八）九月二十一日に、神奈川県とよばれるようになってから、百年経たのを記念して、昭和四十二年（一九六七）四月、次のような目的のもとに本格的な編集に着手しました。

- 一 本県の歴史的発展過程を顧みて、将来の進むべき方向を展望する。
- 一 県民が郷土かながわに関心を深かめる。
- 一 古文書等貴重な諸資料を永く後世に残す。
- 一 学校教育や社会教育に資する。

以来、十七年を要し、資料編・通史編等三十六巻、三十八冊を刊行し、所期の目的を達成しました。しかし、各巻は平均千ページの大部のもので、全体を理解することは困難ともいわれています。本書は、これらの成果を背景に、神奈川県史の歴史に容易に親しんでいただくことを目的に作成しました。

御執筆とこれに御協力をいただいた諸先生と、写真等各種資料を御提供下さった各位に深く感謝致します。

なお、部落差別問題（同和問題）についての本県の基本方針は次のとおりであり、本書もこの方針に沿って編集したものであることを付言致します。

同和問題は、日本の歴史の過程で人為的につくられたものです。江戸幕府は、封建的身分制度として、士・農

・工・商とさらにその下の身分をつくりました。このような身分差別に基づいて日本国民の一部の人のびとが社会的、経済的、文化的に低い状態におかれ現代の社会でも著しく基本的人権が侵害されています。世間の一部の人のびとの間では、同和問題は過去の問題であって、今日の民主化、近代化が進んだわが国にはもはや存在しないという考え方がありますが、同和問題は結婚差別などに見られるように厳然たる事実として存在し、日本国民のだれにも等しく保障されている市民的権利と自由が、完全に保障されていないという最も深刻にして重大な社会問題となっています。

この問題の解決をめざして、県では「これを未解決のまま放置しておくことは断じて許されないことであり、その早急な解決こそ行政の責任であって、同時に国民的課題である。」との基本的認識のもとに、同和対策を、新神奈川計画に盛り込み、県の重要施策として位置づけ、関係市町と協力し、各種の事業を行っているところとす。

昭和五十九年十二月

神奈川県民部県民総務室長

# 神奈川県歴史

昭和59年12月13日印刷

定価 三、六〇〇円

昭和59年12月28日発行

送料 実費

編集 神奈川県民部県民総務室

発行監修 神奈川県

横浜市中区日本大通1

発行 財団法人神奈川県弘済会

横浜市中区山下町1

電話 横浜 ○四五(六六一)○五二五

印刷 大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町1丁目1番1号



